

会 議 議 事 録

			記 録 者	主幹 染谷 優一	
供 覧	部長	課長	補佐	係長	課員
件 名	平成28年度第5回龍ヶ崎市総合教育会議				
日 時	平成29年2月15日（水） 午後3時30分から午後4時30分				
場 所	龍ヶ崎市役所3階 庁議室				
主 催	中山一生市長（事務局：企画課地域戦略グループ）				
出席者	中山市長，平塚教育長，斎藤教育長職務代理者，高橋委員，大野委員，鈴木委員 川村副市長，松尾総合政策部長，宮川企画課長，大貫課長補佐，記録者，荒井教育部長，足立教育総務課長，重田教育総務課長補佐，岡野係長，近野係長，黒田生涯学習課長，小貫指導課長，北澤スポーツ推進課長，大和田給食センター所長，丹指導主事				
欠席者	なし				
傍 聴	なし				
議 題	1 開 会 2 市長あいさつ 3 議 題 （1）龍ヶ崎市教育プランについて （2）龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会について 4 その他 5 閉 会				
情報公開	公 開	非公開（一部公開を含む）とする理由		（龍ヶ崎市情報公開条例9条 号 該当）	
	部分公開 非 公 開	公開が可能となる時期（可能な範囲で記入）		年 月 日	

発言者	発言の内容（主旨）
事務局	<p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成28年第5回龍ヶ崎市総合教育会議を開催いたします。当会議につきましては、原則公開で行うこととされておりますが、本日の傍聴はございませんので報告申し上げます。開会にあたりまして中山市長に御挨拶をお願いいたします。</p>
中山市長	<p>改めまして皆さんこんにちは。今日はいつもと違って庁議室での開催ということですが、教育委員の皆様におかれましては、それぞれの御立場でお忙しい中、平成28年度第5回龍ヶ崎市総合教育会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。鈴木委員に関しては、今日が最後の総合教育会議ということであり、少し寂しいですが、今後の益々の御活躍をお祈り申し上げますとともに、またぜひ龍ヶ崎の教育にもいろいろな形でお力をいただきますことをお願いします。</p> <p>さて、本市はこれまでも子育て環境日本一を目指して、子ども達の健やかな成長と子育てを応援するため、出会い・結婚・妊娠・出産・子育て・教育、それぞれのステージに応じた取組をして参りました。今後も若者世代や子育て世帯の定住人口の増加を図り、本市を元気あふれるまちにしていけるため、市民・行政・団体・企業など、地域が一体となって子育て家庭を支えることが重要であることを踏まえ、昨年12月、平成28年12月11日に子育て応援都市を宣言いたしました。地域全体で子育てを応援するまちづくりを推進するという基本姿勢を市内外に発信したところですが、この度の宣言を皮切りに、子育て環境日本一をさらに進め、教育を含めた地域全体で子育てを応援していく活動を促す取組をスタートさせ、子育て支援の取組をこれまで以上に進めて参りたいと考えております。皆様にも御協力よろしくお願い申し上げます。</p> <p>また、今年新年早々のトピックスとしまして、龍ヶ崎市で学び育った稀勢の里が1月場所において初優勝を果たし、そして、自らの力で横綱昇進を引き寄せたところがございます。すでに御承知の通り、龍ヶ崎市の私立の幼稚園を卒園した後は、松葉小学校、長山中学校と龍ヶ崎市立の学校を卒業しているわけでもございます。この日本人横綱が19年ぶりの誕生というのも驚きを禁じ得ないところもございますが、茨城県出身の横綱も80数年ぶりということですが、茨城県出身の横綱としては、男女ノ川ということですが、実際活躍をしている姿を御覧になった方は、もうほとんどいらっしやらないと思います。そういう意味でも茨城県にとっても本当に大いなる誇りであるわけでもございますが、龍ヶ崎市育ちの稀勢の里ということで、やはり私達のふるさとにとっても、この日本全国を喜ばせた活躍は大いなる誇りでもございます。今日は大野委員もいらっしやっており、私も強い印象に残っているのは龍ヶ崎青年会議所が開催した、わんぱく相撲では無敵の活躍をしていたことがございました。大野委員などはおそらく、そのあと県大会や全国大会の国技館まで引率したりしていたのではないかなと思っておりますが、そういうことで、その全国大会出場した国技館で自らの夢を実現させたということで、何か感慨深いものがございます。</p> <p>それは小学生の頃ですが、中学生の頃になると野球で活躍をされたということでございます。現楽天球団に所属している美馬投手と同世代だったということで、美馬投手とも戦ったことがあるというような話もございます。</p> <p>また、高校野球の甲子園で優勝経験のある強豪校からの勧誘もあったということですが、中学校卒業する前には、文集などで紹介されていましたが、相撲への道を決心していたということでございました。</p> <p>この稀勢の里を育んだのは、龍ヶ崎市でもございます。その龍ヶ崎市で育ててきた夢を果たしたことは、龍ヶ崎で今も生まれている子ども達にとっても本当に大きな希望の星となるのではないかと思いますので、今後も大横綱へ向け</p>

発言者	発言の内容（主旨）
	<p>て力強く、また更なる活躍をすることを期待を申し上げます。そしてまた、総合教育会議のメンバーの皆さんも引き続き、稀勢の里への応援を一緒に力を合わせて参りたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。稀勢の里のように将来への夢を持って未来を開く力を育てていくということは、教育大綱の基本理念と合致するところでもございます。今後も龍ケ崎市の子どもたちの夢や希望を育み、将来を開く力、生きる力を育て参りたいと考えております。</p> <p>さて、本日の議題に入りますが、次第のとおり2つの案件を設けております。</p> <p>1つ目は、龍ケ崎市教育プランについてです。こちらは、前回の総合教育会議での協議・調整を踏まえ、パブリックコメントを実施し、2月6日の庁議で頂いた意見に対する市の考え方を決定したところです。この件について、御報告させていただきます。</p> <p>2つ目は、龍ケ崎市の新しい学校づくり審議会についてです。こちらは1月27日の金曜日に第4回目の審議会が開催されたことに伴い、審議会の概要や主な意見などを御報告させていただき、小中一貫校教育をはじめ、さまざまな課題についての共有を深め、今後の新しい学校づくりについて協議を行って参りたいと考えております。</p> <p>いずれの議題についても各担当から説明の後、教育委員の皆様から忌憚のない御意見・御質問など頂きたいと考えております。</p> <p>最後になりますが、龍ケ崎市の教育環境の充実が図られることを心から期待をしながら、私の挨拶とさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは議事に入りたいと思っております。議事進行につきましては、主催者であります中山市長お願いいたします。</p>
中山市長	<p>それでは、議事進行を着座のままで進めさせていただきます。慎重審議の上での円滑なる議事進行に御協力をお願い申し上げます。</p> <p>本日の議題であります、会議次第にもございますように、2つの案件について委員の皆様へ御意見・御協議を頂きたいと思っております。</p> <p>また、本日の会議時間については午後4時30分に終了を予定しておりますので、改めまして円滑な議事進行に御協力をお願い申し上げます。</p> <p>それでは、議題1の龍ケ崎市教育プランについて、冒頭の挨拶でも申し上げたところですが、2月6日に庁議で、頂いた意見に対する市の考え方について、担当から説明をお願いいたします。</p>
教育総務課	<p>(資料に基づき説明)</p>
中山市長	<p>はい、ただいま龍ケ崎市教育プラン（案）パブリックコメントの結果について説明がございました。</p> <p>この件について委員の皆様から御意見、御質問等あればお願いをいたします。</p> <p>はい、教育長お願いいたします。</p>
平塚教育長	<p>今回のパブリックコメントで、一番関係するのが学校の先生方、現場の声、特に校長先生方にはどのようなお考えをお持ちなのかを素直な気持ちを書いてもらいました。その中で、一番関心があるのは数値目標であったというのが分かりました。この数値目標は可能なのか、実現できるのか。それから、理想とする数値なのかなど、いろんな捉え方があるのですが、これは抱えている学校</p>

発言者	発言の内容（主旨）
	<p>の課題の差によって、その実現が可能かどうかという数値もありますが、今後推進していくにあたっては、この数値の持つ意味というものももう一度噛み砕いて、そして実践に移していかないと、ただ掲げた数値ということになってしまいます。この点は今後留意していきたいと思います。</p> <p>それから、英語教育で英検3級程度の割合を60%にする目標値について、頼もしい限りであるという御意見がありました。この方は教育長室にこられまして、英語教育のお話させていただきました。学校の英語教育についての関心はかなり高く、今、取り組んでいることを説明させていただいたところ、随分理解してもらえました。やはりそういった部分で、パブリックコメントや市民会議など、そういったものは参加者が少なくても、繰り返しやっていく必要があるのかなと思います。そして、どこかで説明する機会がやはり必要かなということを感じた次第でございます。以上です。</p>
中山市長	はい、ありがとうございます。ほかにもございますか。
一同	(特になし)
中山市長	<p>それでは、特にないようですので、次に移らせていただきます。</p> <p>続きまして、議題2、龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会について、担当から説明をお願いします。</p>
教育総務課	(資料に基づき説明)
中山市長	<p>ただいま龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会についての説明がございました。こちらについては、4回目の審議会が開催され、今後「(仮称)龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針」の策定に向けて、この総合教育会議の中で協議を進めていくこととなります。</p> <p>委員の皆様の御意見、御質問等をお願いします。はい、高橋委員。</p>
高橋委員	<p>この場でお話をするのが果たして正しいのかどうか迷いましたが、龍ヶ崎市の目指す子ども像というのは、もちろん教育大綱では「ふるさと龍ヶ崎の今を担い」とあるのですが、稀勢の里の例を思うと、今、龍ヶ崎市にいなくても、龍ヶ崎市とつながって何か一生懸命やってくれるような子どもをつくるというのも一つ視点として、今後考えなければいけないのかなと思いました。この教育大綱はもう変更できないのは分かるのですが、その次を見据えると、そういうニュアンスでやはり、小中一貫教育も含めて考えた方が、稀勢の里の例を考えた場合、何かそういう視点があると、龍ヶ崎市のことを郷土と思いやすいと思います。私達も彼が龍ヶ崎出身と認めやすいという思いが1月からありまして、この今を担わなくても、今ここにいなくても、龍ヶ崎市につながって常にずっとつながってくれるようなお子さんを目指すというのが、この目指す子ども像の中に少しでも見えてくると、私としては嬉しいと思いました。</p>
中山市長	ありがとうございます。ほかにもございますか。はい、大野委員。
大野委員	<p>今、高橋委員が言ったように、龍ヶ崎市の目指すべきところなのですが、なぜこういう話になったのかを思うと、やはり稀勢の里が育ったのは、その頃の龍ヶ崎市の環境がそうしたのだと思います。松葉小学校、長山中学校のそれぞれの環境があって、また地域や青年会議所があって、そういった地域を担う人</p>

発言者	発言の内容（主旨）
<p>中山市長</p>	<p>づくりみたいな雰囲気やっていたと思います。そういった雰囲気をつくったのは龍ヶ崎市そのものだと思います。それが今、ちょっと崩れてきているから、新しい龍ヶ崎市のまちづくりみたいな、または小中一貫みたいな、子どもが減ってしまっているということもありますが、やっぱり元気がなくなっているというのがあるのと思います。</p> <p>はっきりとした答えはないと思いますが、一つの要因としては、昔と環境が変わったということがあるので、昔に戻すということではなく、これから少子化を含めた龍ヶ崎市の教育環境をつくるというのを目指すべきだと思います。少し抽象すぎて、分かりづらい意見になります。</p> <p>ありがとうございます。高橋委員のお話にもありましたが、やはり、龍ヶ崎を巣立っていく子ども達もいるわけですが、活躍している姿は、私達にとっても嬉しいことです。本人にとっても、ふるさと意識を育んでもらったことに対する感謝の気持ちみたいなものを持っていただけるような教育、龍ヶ崎は教育については伝統があって、大変皆さん頑張ってくられたのだと思います。そういう環境があったことと、今、大野委員がおっしゃられたようなことがありますし、昔と同じような教育をしていけば、そんなに変わることはないと思うのですが、何か全体が後ろ向きになっているような雰囲気があると思います。それは学校とか地域の人たちとか、あるいは親とかにもそういう雰囲気が蔓延しているような、そういう危機感を確かに覚えているところではあります。ただ、これはその時に生まれて育っていく子ども達にとっては、ある意味、関係ないと言ったら極端な話ですが、やはり前向きにもっと進んでいけるような新しい学校づくりというのが求められていることは、当初から思っていたところでもございます。</p> <p>そういうことで、教育に対する歴史と伝統の強みは、私はもう龍ヶ崎は誇りにしていいと思います。その辺をもっと前に押し出していくことがやっぱり子ども達のためにもなってくるのではないかなと、前向きに強みを生かしていくということが大切なのかなと思います。</p> <p>今、いろいろお話がありましたが、そのことについてでも結構ですので、皆さんから御意見を頂きたいと思います。はい、教育長。</p>
<p>平塚教育長</p>	<p>大野委員の御意見は、本当にごもつともだと思います。この審議会で、目指す子ども像に向かうために、どんな教育をやっていくのかという方法と、今ある環境の中でどういう子どもを育てていくのかという二面性があるわけです。そうすると、どちらの方が龍ヶ崎らしいのかなと思います。龍ヶ崎はこの審議会でいろいろ調査をすればするほど、非常に教育環境に恵まれていて、過ごしやすい。コンパクトですが、歴史も文化も、それから運動面もいいし、それから牛久沼もあり、自然環境はすばらしいし、安全であるなどという、そういう回答が非常に高いところです。</p> <p>ですから、ただそういったものをどうやって生かしていくのかというと、私はむしろ地域性だとか、ここでしかできないような有効な教育を9年間途切れることなくやれば、こんな子どもが育つだろうということで、初めて目指す子ども像が見つけられるのかなと思っています。</p> <p>また、会議資料の5ページの2番の(2)の課題なのですが、この中でこれから学校や教育委員会で研究していく課題というのが①番とか、②番などが、研究の内容に関わるものでございます。この中で一番困難なのが⑤番だと思います。この学区の問題がどうしてもひっかかってしまいます。旧市内の小学校が2つの中学校に分かれてしまうというのが、いくつかあるわけです。城南中、</p>

発言者	発言の内容（主旨）
	<p>愛宕中、それから城西中もそれに関係するような学区です。ですので、この審議会をやっていくと最後に残ってくるのは学区の審議という非常に大きな問題が近い将来、検討していくことになると思います。ただ、だからといって、それまで何もできないというわけではなく、取り組むのが研究だと思いますので、そういったものは時間をかけて審議する中でも、龍ヶ崎らしい教育の仕方、それを9年間連続して行うことの有効性というものをもっともっと強調して、その結果、育つであろう子ども像ということを考えていくと見えてくるのかなと思います。</p> <p>それで、何かキーワードというのは「人づくり」と感じています。それは筑波大学の樋口先生が言うように「人づくり科」とか、特化した学科をつくるという方法もあると思いますが、それから「人づくり学習」とか、方法論で位置付ける方法もあるかと思っています。では、どの時間でやるかといえば、総合的な学習時間の1時間をそちらに使えば、年間で35時間ぐらいはできると思います。では、その35時間でどのような内容を理解していくのかという研究もできるだろうし、または、道徳や国語や社会の中で、この単元のこの部分は人づくりの学習として、そういったカリキュラムをつくりましょうという方法も生まれてくると思います。実際の方向性が見えると非常に選択肢も多くなるようなこともできるのが龍ヶ崎市の現状と考えております。以上です。</p>
<p>中山市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。ほかにもございますか。はい、斎藤先生お願いします。</p>
<p>斎藤教育長 職務代理者</p>	<p>今回もいろいろとお話が出てきて、また私もずっと考えてきて、今まで小中連携という大きな枠組みで、ここ何年も龍ヶ崎の教育はやってきたわけです。それが、ここに来て、小中一貫という言葉に少し変わりつつあります。そこに焦点を当てていくと、連携と一貫って何が違うのだろう、また、何を变えないと一貫につながっていかないのか、ということをご最近思ったりするわけです。制度的な問題ではないし、先程の子ども像とか児童像にも照らしてみても、一貫というのは一番いいのですが、それぞれの学校の持ち味があるから、そこを打破できない部分もあるのだろうと思います。ある面では、今までの小中という、小学校と中学校の接続は比較的分かりやすくはなってきたが、果たしてそれ以上に前進するのか。前進しなければ一貫という言葉は無理なのではないかという思いもあります。その辺をもう少しイメージを変えていかなければならないのかなと思っています。</p> <p>ですから、私はその一つは、先程の学区の話もありましたけど、小小が同じ学区内の、例えば小小が同じ教育目標をしっかり持たなければ、バラバラになってしまうのではないかと、今までと同じなのではないかと思っています。だから小学校同士が、教育目標を共通化していくという形をもっと図っていけば、中学校との接続ももっとしやすくなるし、一貫につながっていくのではないかと思います。そうすると学校は変わってもという部分も結構あるような気がします。そこら辺をもう少し見てみたいということと、あとどうしても知・徳・体のバランスのある教育が望ましいことは分かるのですが、今の時代、果たして知・徳・体をバランスよくやるのが最高なのか。ある面で、例えば知を主にした考え方をするのか、いや徳を大事にするのか、いや体を大事にするんだという、優先順位や、段階的なものもあると思います。</p> <p>それはここに出ている課題、子どもの持つ課題、地域の持つ課題との関係で、もっとそこは吟味しながら、もう少し精査した形で、教育目標的なものを作るか、または子ども像をもう少し具体的な形で掲げて、それに向けていくという</p>

発言者	発言の内容（主旨）
	<p>ようなことをもっと考えていく必要があるのかなと思います。そういう面では、学校もそれぞれの考え方が出てきてますが、もう一步深く突っ込んでいかないと、これは行きどまりになってしまうと思います。そうすると、学区を変えないとだめだとか、もっと学校を合併しないとだめだとかそういう話までもつながっていくのだろうと思います。</p> <p>それも考えながら、今できることを十分にやっていくことも必要と思いますし、それが保護者とか地域の理解にもっとつながっていけば、学区の再編成も可能になるのではないかと思います。以上です。</p>
<p>中山市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。皆さんからいろいろ意見いただきましたが、いろんな御意見も含めて何か鈴木委員の方からありますでしょうか。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>実は、私この審議会を傍聴させていただきました。ちょうどこの概念図について、委員の皆さんが議論したり、頭を抱えている姿を見て、確かに難しいなと感じました。今、お話しを伺って私も実は斎藤先生と同じ意見で、まずこのたたき台から、もちろんこの吟味していただくのは、審議会のメンバーの先生方に十分に議論していただきたいと思っているのですが、確かに知・徳・体としている時点で、もうすでに何か別の概念にどっぷり浸かっているのでは、その時点で龍ヶ崎らしさというものではなくてはならないかという気もしています。ですので、確かに国の方針、次期学習指導要領も出てきますので、ここに捉われずに、もう少し龍ヶ崎市のメリットは何か、あるいはデメリットを補完するような形でもいいですし、それがまず見えてくるといいのかなと思っています。</p> <p>樋口先生もおっしゃってましたが、次の段階では具体的な方法論として、これだというものを出す時期なのではないかということなのですが、その方法論を出すには、皆さんの意見をいつまでも聞いていても、なかなか出にくいというのも確かにあります。やはり、どこかでリーダーシップをとっていただいて、こういう方法論というものをもっと具体的な形に目に見えていくと、次の段階としては、そこを目指していただきたいなと思って傍聴しておりました。</p> <p>ただ、それが具体的に何がと言われても私にはまだ、そこまではっきり分かってないので、ぜひ審議会のメンバーの皆さん方に議論していただいて、今後の新しい龍ヶ崎というものを目指していただきたいと思っています。</p>
<p>中山市長</p>	<p>ありがとうございます。ほかにありますか。確かに漠然とまだ雲を掴むような中で、この話を進めているような状況なのかなという気がいたしますが、そういう意味で、リーダーシップを果たす役割を一つ担っているのは、この総合教育会議であると思います。事務局レベルでは、この会議に至るまでいろいろな話をしているかと思いますが、そういう中でやはり、どういうリーダーシップを果たすのかという役割を担っていくかを考えていかなければならないと思います。</p> <p>また、私は政治サイドでもある人間なので、何か物事を大ざっぱに括って考えてしまうようなところがあるのですが、ただ、やはり時代がもう大きく動いてる中で、今回の新しい学校づくり審議会でもありますし、その後、新しい学校づくりを目指していくという方向性でもありますので、進みながら考えていくということも必ず出てくると思います。</p> <p>最初からすべて完成形で、この新しい学校づくりが実現できるということではないのは、皆さんも御承知だと思いますが、やはりモデル校を作ったり、あとは、経過措置として、次の段階へもう1段階ありますが、とりあえず今の段階</p>

発言者	発言の内容（主旨）
	<p>ではここまで進めてというようなところもあると思います。今後、施設一体型・分離型というのでも並行して行われていくことにもなりますので、そういう中で、学区の話もございましたが、確かにその動きが大変複雑になっていくという部分はあると思います。やはり地域をきめ細やかに見ていくことによって、そういう問題というのをおのずと収束するところは見えてくるのかなと思います。そういうことで、形ありきではなくて、まずは目標や理想をどういうところに掲げていくのかというのが大事なのかなと思います。最初の話に戻ってしましますが、私もそのような思いでこの議論をスタートさせていただいたところでもありますので、それが一番、市民の皆さんとか保護者の皆さんにも理解していただくのに一番大きな力になっていくのかなと思います。</p> <p>また、つくば市は小中一貫教育のモデルケースのような取り上げられ方をしていますが、新しい市長さんとお話をしていたら、そう見えるけどそうでもないんだよと、大変なんですよというように話をされていました。今も、新聞報道等で報道されているような問題もありますが、それだけでなく先行している小中一貫教育でもいろいろな問題が出てくるし、やはり課題は多いというように話はされていました。そういう先進事例もありますので、参考にすべきだと思いますし、そういう問題を起こさないような形を目指していくというのが理想なのだろうと思います。</p> <p>やはり、仕組みを変えていくというのは、大変エネルギーの要ることですので、そういう意味では、教育委員会の皆さんも頭を抱えるところなのだろうなと思いますが、その辺はやはり、この総合教育会議も含めて、皆さんの知恵を集めていかなければならないのかなと思います。</p> <p>皆様からの御意見はいかがでしょうか。はい、高橋委員お願いします。</p>
高橋委員	<p>心の準備として市長と教育長にお伺いしたいのですが、小中一貫教育の実施に向けた場合、龍ヶ崎市では、1つモデル校みたいなのを作って、そこでメリット・デメリットを吸い上げた上で、全体に施行するというようなイメージでしょうか。それとも、最初からすべての小中学校に対して小中一貫の制度をつくって適用するというイメージでしょうか。</p>
中山市長	<p>はい、教育長。</p>
平塚教育長	<p>はい。現在、考えているのは一斉に小中一貫教育を実施といっても、龍ヶ崎市内の小中学校は異なる地域性があります。このため、同じような教育内容の目標を掲げたところで、どれほどの意味があるのだろうかと思います。地域の特色を踏まえながら、龍ヶ崎市の地区は大きく分けると4つの地区になりますが、子ども達の良いところを伸ばせるのは、その環境の中でやれるものをまずは伸ばしてあげるといった教育が良いかなと思います。</p> <p>そうすると、いわゆる旧市内とニュータウンでは環境が異なりますが、ある程度統一した教育内容があれば活かされるし、その場でしかできないようなこともあるわけです。ですから、御指摘のようなモデル地区として、それで当面、一番連携がしやすいのは、城ノ内中学区が非常にこの小中一貫教育を導入するうえで、学区が同じため、研究するには良いかもしれないと思います。</p> <p>一番難しいのは、愛宕中学校区と城南中学区が困難を要すると思います。</p> <p>ですので、まず先行的に教育委員会が考える先行モデルとして、2年間の指定をして、そこで2年の間に研究発表する。そして、次の地区を2年間やって、合計3年間やってる間にいろんな課題や実践研究ができます。このため、小中一貫教育の完全実施は、平成33年以降になると思います。ただ、それまでの</p>

発言者	発言の内容（主旨）
<p>中山市長</p>	<p>間につきましては、準備研究期間として、私達も慎重にやっていたらと考えております。</p> <p>はい、そのようなプロセスは大事であるし、そういうプロセスの中で、最適な形を見つけていくというのが大切だと思います。極論を言ってしまえば、例えば、今、4地区の話をされてましたが、施設一体型の小中一貫校が4校できるというのが究極の理想だと思います。ただ、そこまでいくにはおそらく何十年もかかるのかなという思いがございます。そのプロセスを踏む前段階として、先程も申し上げましたが、小中一貫はこれだけ魅力があるんですよ、子ども達にとってもいいんですよというメリットをしっかりと見せていくことが大事なのかなと思います。その中で今、教育長が言われたようなプロセスを踏んでいき、最初は施設分離型からになると思いますが、そのような形で全市で小中一貫教育をスタートしていくということになると考えております。その中で、施設一体型というのは目指すべき方向であると思いますので、それぞれモデル校みたいなものは、1カ所つくってやっていたら良いのかなと思います。ほかにございますでしょうか。</p>
<p>一同</p>	<p>（特になし）</p>
<p>中山市長</p>	<p>それでは、新しい学校づくり審議会の報告に対して、皆さんから本当に中身の濃いさまざまな御意見を頂きました。ありがとうございました。これに関しましては、総合教育会議でも、これからの時代に向けた新しい学校づくりについて大切な議題になっていくと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>それでは、時間も参りましたので、以上をもちまして、本日の会議を閉会とさせていただきます。皆様の慎重審議に感謝を申し上げまして、私の議事進行の役目を終えさせていただきます。</p> <p>最後に、事務局から何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい、ありがとうございました。本年度は本日の会議をもって最後となります。来年度以降につきましては、まだ決まっておりませんので、追ってまた連絡いたしますので、よろしくお願ひいたします。</p>